

日々の仕事に追われ時間がない職員が多い。 職場自治研を育み、 根付かせるための良策はありませんか？

回答
自治研マイスター

私たちの職場では、「かつてに比べ、余裕や助け合いがなくなった」、「働きがいがない」と感じていたり人が非常に増えてきた。実際、組合の交流会や自治研セミナーなどで、「職場の課題」について話し合いを行うと、必ず業務量の増加や人員の削減といった話題がテーマにあがります。

そうしたなかであって、「とにかく目の前にある仕事をやっていくだけで、職場で改善策を話し合っているひまもない」というのが、現場で奮闘されている職員さんの本音でしょう。その上にさらに「組合活動ましてや自治研と言われても…」というような状況があるのも理解できます。

しかし、その考え方には、「職場環境」、「働きがい」という職場の問題と、「組合活動」、「自治研」という活動を、まったく別な次元のものと考えているという傾向がないでしょうか。確かに職場の問題に目はつぶって（それを解決しようと思わずに）、組合活動や自治研活動を推奨しても、それはかえって負

担を増すことになってしまっただけでしょう。

むしろ、労働組合として率先してそうした職場の課題に向き合うことでこそ、職場発の組合運動や「職場自治研」のチャンスが生まれてくると言えないでしょうか。

困っていると思われる現場に、組合の側から声をかけていくべきでしょうか。自治研担当者は、事務改善活動に積極的に取り組んだり、特徴的な政策を生んだりしている職場をどれくらい把握しているでしょうか。現場からの改善活動によって職場環境が好転したという事例を知っているでしょうか。

「言っても変わらない」、「変えることは無理」という無言の聲・あきらめを、「なんとかなる」、「やってみよう」という前向きな動きに変えていく…端的に言えば、現場で悩む組合員の「背中をそっと押してやる」ような取り組みが、今こそ私たち・自治研側に求められていると言えるでしょう。

組合事務所や会議室で自治研を語るのではなく、ぜひ現場・職場からの自治研をめざしましょう。

事例 余裕のない仕事を 何とかしたい！ 自分たちで業務改善

札幌市の学校給食職場で、組合員が自ら業務改善に作った作業動線図作成ソフトとは、どのようなものですか？

作業動線図とは、食品・食材が納品さ



ソフト開発プロジェクトチームの会合の様子

れてから配食されるまでの動きを線に表す帳票で、手書きだととても煩雑ですが、パソコンで献立名を選択しクリック一つで食材などが色別に一発表示され、あとは線を引くだけでいいソフトです。

取り組みのきっかけや経過は？

衛生管理の徹底やアレルギー対応食の導入など複雑なチェックや対応などで業務量が増加し、人員も削減されるなか、みんな余裕のない仕事が続いていました。とくに手間のかかるのが作業動線図などの帳票類の作成で、組合主催のパソコン講習会で「もつと簡単な操作で帳票を作れるソフトがあれば」という話が出ました。

組合でパソコンに詳しいメンバーを募って二人のプロジェクトチームを作り、札幌市のすべての直営調理校の図面や、五〇〇を超える料理レシピ、アレルギー対応の食材の入力など、手分けして行い、六ヵ月かけて作成しました。その結果、各職場で月平均で七〜一〇時間ほど短縮になり、勤務時間内での作

成や他の作業ができる余裕もできました。———すぐ業務改善になりましたね。みんな職場自治研のベテランですか？
とんでもない。実は完成した後、担当の組合役員から「これってすごい自治研の取り組みじゃない？ぜひレポートにして」と言われました。正直、当人たちは自治研なんて知らなかったんです（笑）。
職場の困りごとや業務改善の課題を「何とかしたいね」と協力しあって解決していく、そのなかで個々人の仕事への意識も向上し、やりがいや自信につながりました。「皆さん！忙しいからこそ、そのことをみんなで何とかしようよ！」

（回答者：札幌市役所労働組合
教育委員会支部・藤原玲子さん）

自治研ということ意識しなくても、毎日の仕事を少しでも改善する取り組みが自治研かもしれないワン。

